

第2章 文化施設

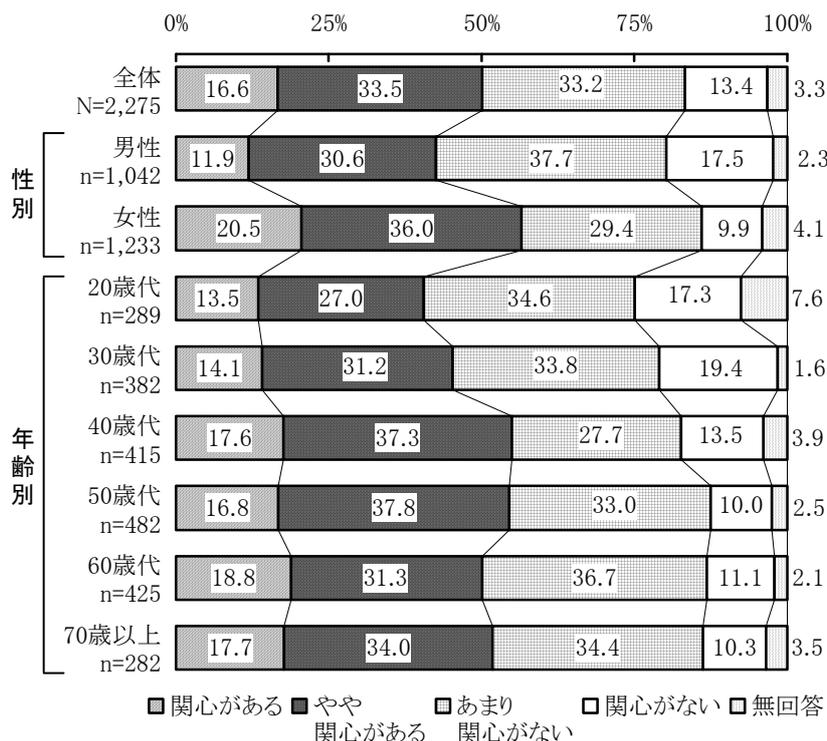
2-1 文化芸術への関心

◆男性は40歳代、女性は30歳代になると関心度が上昇。

point

●文化芸術への関心度（「関心がある」と「やや関心がある」の合計）は、性別の差が大きく、女性の関心度は56.5%と半数を越えている。

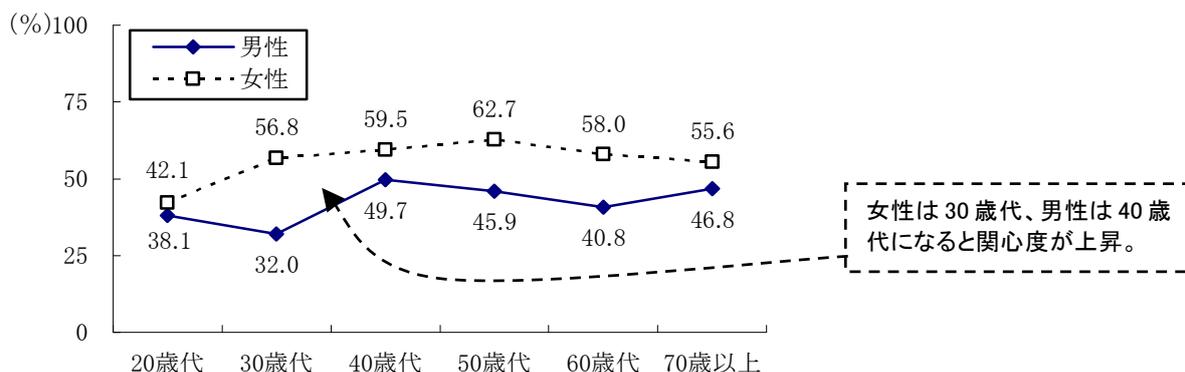
問3 あなたは、すぐれた文化芸術を鑑賞したり、自ら文化芸術活動を行うことに関心がありますか。あてはまる番号に○印をつけてください。



属性別
特徴

- ・性別でみると、『関心がある』（「関心がある」+「やや関心がある」）の割合は女性（56.5%）の方が男性（42.5%）よりも高い。
- ・年齢別でみると、40・50歳代（54.9%・54.6%）で『関心がある』割合が高く、20歳代（40.5%）で最も低くなっている。

■図2-1 性別・年齢別にみた文化芸術への関心（「関心がある」+「やや関心がある」）



2-2 大規模ホールについて

◆最近大規模ホールを利用した人は3割弱。

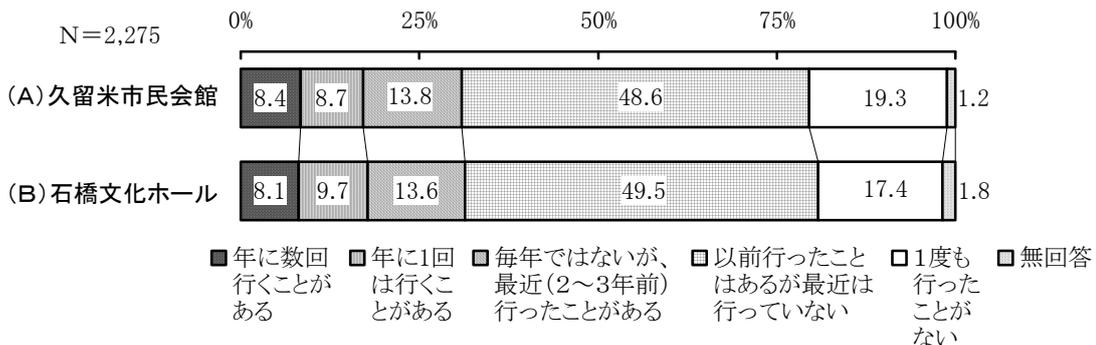
(1) 大規模ホールの利用頻度

point

- 久留米市民会館と石橋文化ホールの利用頻度にはあまり差がみられない。
- 両大規模ホールとも、性別では女性、年齢別では 60 歳代以上での利用が多くなっている。
- また、久留米市民会館は中央南部・北部A・中央部などで、石橋文化ホールは北部A・中央部・東部Aなどで『行ったことがある』割合（「年に数回、年に1回、最近行ったことがある」の合計）が高くなっている。

問4 久留米市には、収容数 1,000 人を越える大規模ホールとして、「久留米市民会館（大ホール）」と「石橋文化ホール」の2つがあります。

- (A) 久留米市民会館【客席数 1,348】について
あなたは、久留米市民会館（大ホール）を利用したことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。
- (B) 石橋文化ホール【客席数 1,085】について
あなたは、石橋文化ホールを利用したことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。



属性別特徴

(A) 久留米市民会館について

- ・「年に数回行くことがある」「年に1回は行くことがある」「毎年ではないが、最近(2~3年前)行ったことがある」の合計を性別で見ると、男性(25.9%)よりも女性(35.1%)の方が割合が高い。
- ・年齢別で見ると、「1度も行ったことがない」割合は20・30歳代で高く、それぞれ29.8%、32.5%となっている。逆に「年に数回行くことがある」割合は60歳代や70歳以上で高く、それぞれ13.6%、15.2%となっている。
- ・ブロック別で見ると、中央南部・北部A・中央部などで『行ったことがある』割合（「年に数回、年に1回、最近行ったことがある」の合計）が高くなっている。また、東部B(田主丸)や西部A(城島)では「1度も行ったことがない」と答える割合が3割をこえ(31.3%、31.0%)、次いで北部B(北野)や西部B(三瀬)がそれぞれ27.4%、25.2%と続いている。

(B) 石橋文化ホールについて

- ・「年に数回行くことがある」「年に1回は行くことがある」「毎年ではないが、最近(2~3年前)行ったことがある」の合計を性別で見ると、男性(24.4%)よりも女性(37.3%)の方が割合が高い。
- ・年齢別で見ると、「1度も行ったことがない」割合は20・30歳代で高く、それぞれ24.9%、29.6%となっている。逆に「年に数回行くことがある」割合は60歳代や70歳以上で高く、それぞれ12.0%、14.5%となっている。
- ・ブロック別で見ると、北部A・中央部・東部Aなどで『行ったことがある』割合が高くなっている。西部A(城島)では「1度も行ったことがない」と答える割合が3割をこえ(30.2%)、次いで西部B(三瀬)(26.9%)、東部B(田主丸)(23.1%)、北部B(北野)(20.0%)が続いている。

(2) 大規模ホールの満足度

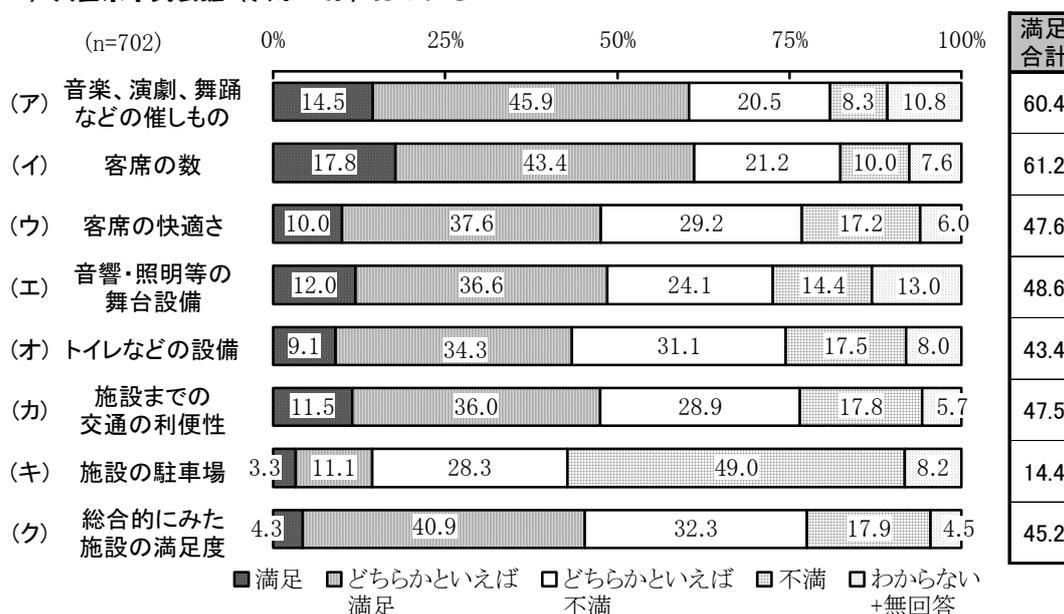
point

- 両ホールともに『満足』（「満足」+「どちらかといえば満足」）と答えた割合が高いのは「音楽、演劇、舞台などの催しもの」と「客席の数」。
- 「総合的にみた施設の満足度」について、『満足』と答えた割合は、久留米市民会館（大ホール）が45.2%で5割を下回っているのに対して、石橋文化ホールは65.6%。
- 両ホールともに、特に満足度が低いのは「施設の駐車場」。

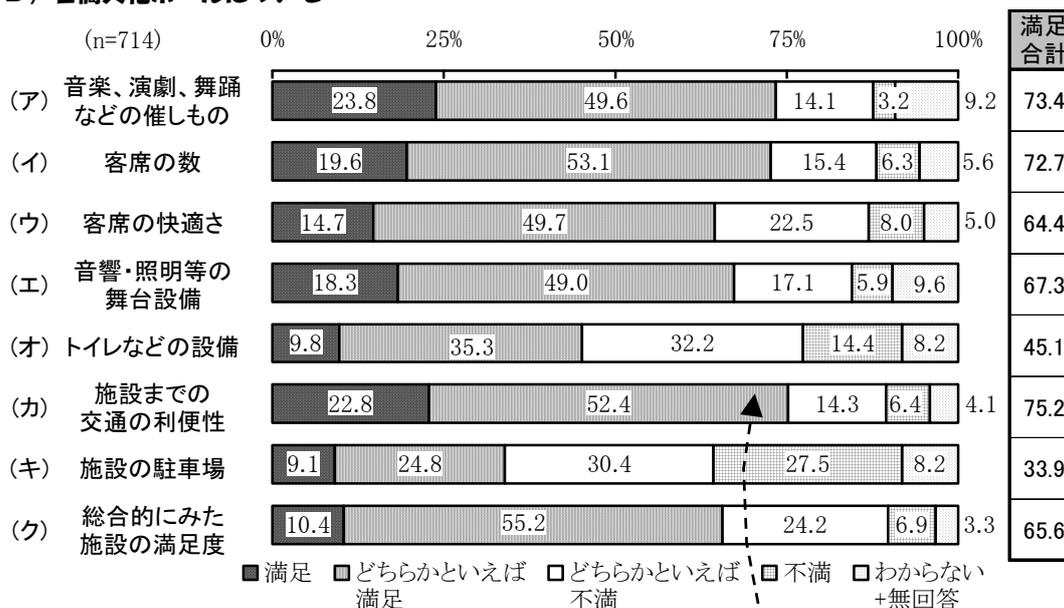
【問4で、「毎年ではないが、最近（2～3年前）行ったことがある」以上に回答した人に】

付問 久留米市民会館（大ホール）及び石橋文化ホールの満足度はいかがですか。
次の（ア）～（ク）のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

(A) 久留米市民会館（大ホール）について



(B) 石橋文化ホールについて



石橋文化ホールは「施設までの交通の利便性」の満足度が非常に高い。

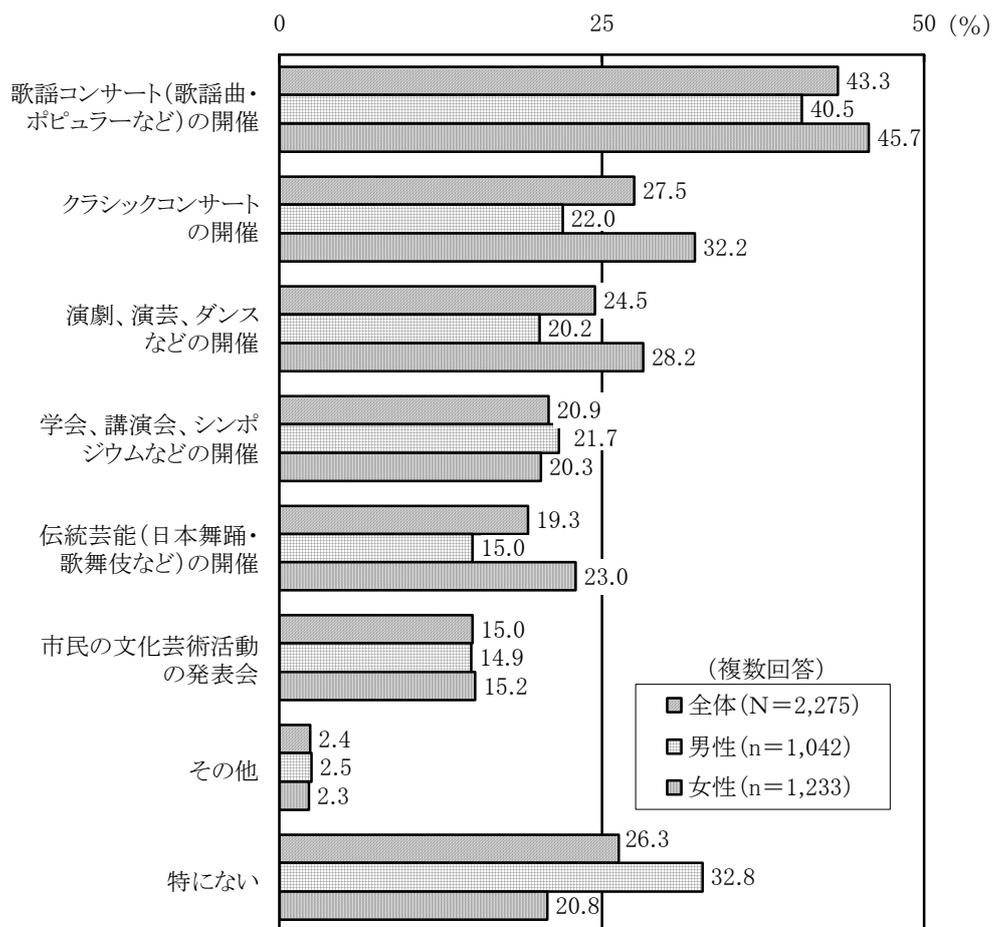
属性別 特徴	<p>(A) 久留米市民会館（大ホール）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別でみると、(ク)総合的にみた施設の『満足度』(「満足」+「やや満足」)は、男性(40.7%)より女性(48.0%)の方が割合が高い。また、(イ)客席の数でも『満足』の割合は男性(57.8%)より女性(63.5%)の方が高くなっている。 ・年齢別でみると、(ア)～(ク)の各項目で、40・50 歳代の『不満』(「やや不満」+「不満」)の割合が高い。特に(キ)施設の駐車場に対する『不満』は 85%を超えている。 ・ブロック別でみると、(カ)施設までの交通の利便性で、北部B(北野)、西部A(城島)、東部B(田主丸)は『不満』の割合が6割を超えている。 <p>(B) 石橋文化ホールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別でみると、(ク)総合的にみた施設の『満足』は、男性(60.7%)より女性(68.3%)の方が割合が高い。また、(イ)客席の数でも『満足』の割合は男性(68.5%)より女性(75.0%)の方が、(キ)施設の駐車場でも男性(27.6%)より女性(37.4%)の方が高くなっている。 ・年齢別でみると、(ア)～(ク)の各項目で、30～50 歳代の『不満』の割合が高い。 ・ブロック別でみると、(カ)施設までの交通の利便性について『不満』としている割合は、西部B(三潁)では 47.8%と半数近くあり、次いで西部A(城島)が 39.1%で高い。また南西部(35.2%)、南東部(32.4%)も高くなっている。
-----------	---

(3) 充実してほしい催し

point

- 充実してほしい催しは「歌謡コンサートの開催」が第1位（43.3%）。次いで「クラシックコンサートの開催」が27.5%となっている。
- 催しの充実を望む声は、特に女性で多く挙がっている。

問5 久留米市にある大規模ホールで、今後どのような催しを充実して欲しいと思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



属性別特徴

- ・性別でみると、「学会、講演会、シンポジウムなどの開催」を除き、催しの充実を望む声は、男性よりも女性の方が多くなっている。
- ・年齢別でみると、「クラシックコンサートの開催」は40・50歳代で3割を超える(32.5%、35.1%)。また「伝統芸能(日本舞踊・歌舞伎など)の開催」は50歳代以上で多く挙がっており2割を超えている。
- ・ブロック別でみると、西部A(城島)や東部B(田主丸)で「特にない」の割合がやや高く、それぞれ34.5%、31.3%となっている。

■表2-1 文化芸術活動への関心度別にみた充実してほしい催し(複数回答)

(%)

	標本数	充実してほしい催し(複数回答)									
		歌謡コンサート(歌謡曲・ポピュラーなど)の開催	クラシックコンサートの開催	伝統芸能(日本舞踊・歌舞伎など)の開催	演劇、演芸、ダンスなどの開催	市民の文化芸術活動の発表会	学会、講演会、シンポジウムなどの開催	その他	特になし	無回答	
全体	2,275 100.0	986 43.3	626 27.5	440 19.3	558 24.5	342 15.0	476 20.9	54 2.4	598 26.3	36 1.6	
文化芸術活動への関心度別	関心がある	377	43.2	57.0	37.7	39.8	21.8	29.2	4.0	6.6	1.6
	やや関心がある	763	50.2	34.9	24.9	29.5	21.2	27.5	2.6	14.4	0.8
	あまり関心がない	756	43.8	13.9	10.7	17.7	11.0	15.6	1.6	35.1	1.9
	関心がない	304	27.6	6.6	4.3	9.9	2.6	7.9	1.6	58.2	1.6
	『関心あり』 『関心なし』	1,140 1,060	47.9 39.2	42.2 11.8	29.1 8.9	32.9 15.5	21.4 8.6	28.1 13.4	3.1 1.6	11.8 41.7	1.1 1.8

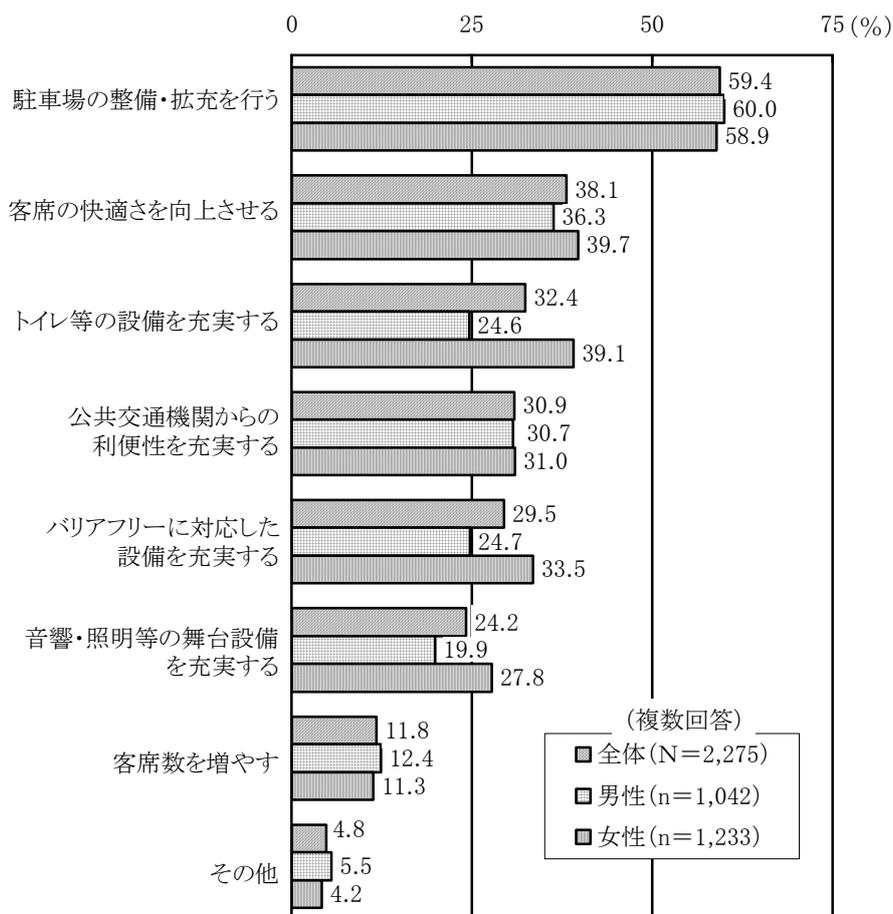
※『関心あり』は「関心がある」「やや関心がある」の合計、『関心なし』は「関心がない」「あまり関心がない」の合計

(4) 力をいれるべきもの

point

- 大規模ホールの充実には「駐車場の整備・拡充を行う」(59.4%)が最も多く望まれている。
- 「トイレ等の設備を充実する」「バリアフリーに対応した設備を充実する」「音響・照明等の舞台設備を充実する」などは、男性よりも女性の方で多く挙げられている。

問6 大規模ホールをより充実させるために、今後どのような点に力をいれるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



属性別特徴

- ・性別でみると、「トイレ等の設備を充実する」「バリアフリーに対応した設備を充実する」「音響・照明等の舞台設備を充実する」などは、男性よりも女性の方で多く挙げられている。
- ・年齢別でみると、「駐車場の整備・拡充を行う」は40~50歳代で特に多くなっている(65.5%、66.4%)。同様に「客席の快適さを向上させる」は40~60歳代で多く挙げられている。
- ・ブロック別でみると、「駐車場の整備・拡充を行う」は、北部A(66.2%)、南西部(65.7%)で多く挙げており、「公共交通機関からの利便性を充実する」は、東部B(38.1%)、南西部(37.1%)、西部B(三猪)(36.1%)で多くなっている。

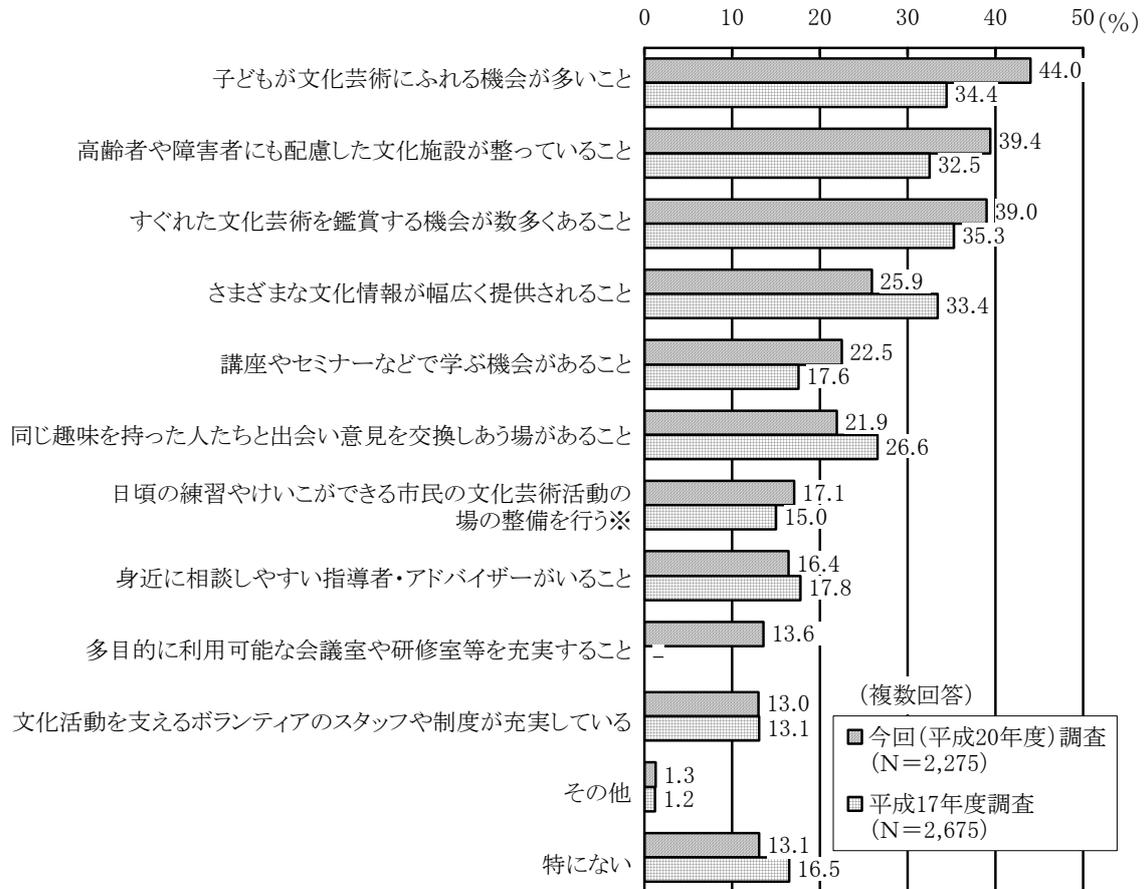
2-3 文化芸術のまちづくりを進める上で必要なこと

◆「子どもが文化芸術にふれる機会」や「高齢者や障害者にも配慮した文化施設」が望まれている。

point

- 40 歳代以下では「子どもが文化芸術にふれる機会」、50 歳代では「すぐれた文化芸術を鑑賞する機会」、60 歳以上では「高齢者や障害者にも配慮した文化施設」が最も高い。
- 平成 17 年度と比較すると、上位 3 つはいずれも割合が高くなっているが、「さまざまな文化情報が幅広く提供」は 7.5 ポイント程度低くなっている。

問 7 今後、文化芸術のまちづくりを進める上で、どのようなことが必要だと思われますか。
次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。

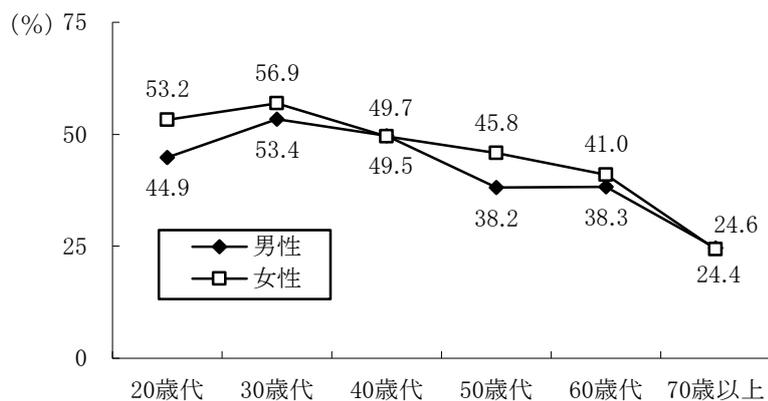


※平成 17 年度調査では「創作活動や音楽・演劇等の練習に利用できる施設が整備されていること」

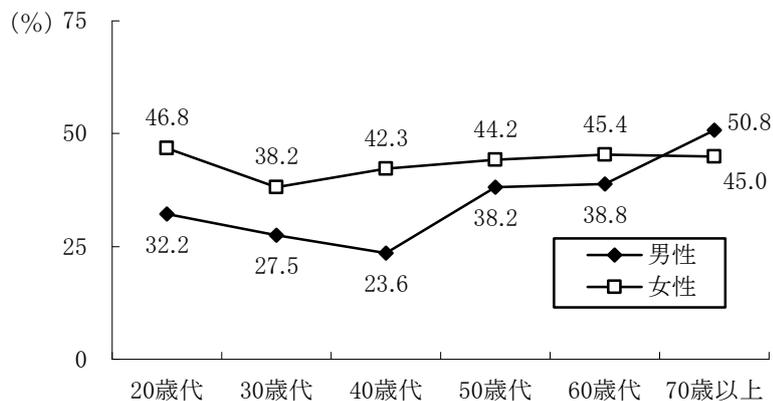
属性別特徴

- ・性別でみると、「高齢者や障害者にも配慮した文化施設」の割合は女性(43.6%)の方が男性(34.5%)よりも割合が高く、同様に「すぐれた文化芸術を鑑賞する機会」も女性(42.2%)の方が男性(35.3%)よりも高い。
- ・年齢別でみると、「子どもが文化芸術にふれる機会」は 30 歳代(55.2%)をはじめとして 40 歳代以下で割合が高い。「高齢者や障害者にも配慮した文化施設」は 70 歳以上(47.5%)をはじめ 50 歳代以上で高いが、20 歳代でも 40.8%となっている。「すぐれた文化芸術を鑑賞する機会」は 50 歳代で 46.7%と最も高くなっている。また、若年層で高いものとして、「同じ趣味を持った人たちと出会い意見を交換しあう場」が 20 歳代で 30.4%、30 歳代で 28.0%となっている。
- ・ブロック別でみると、「子どもが文化芸術にふれる機会」は中央南部(51.6%)や北部A(49.8%)で特に高く、「すぐれた文化芸術を鑑賞する機会」は中央部、西部B(三潁)、中央南部でやや割合が高い。

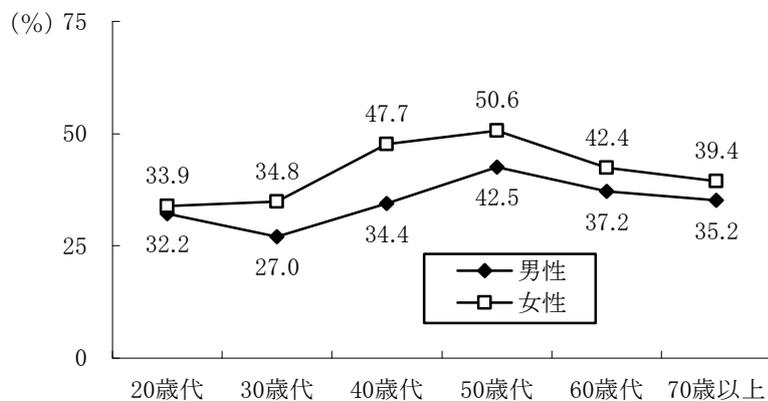
■ 図2-2 性×年齢別にみた、文化芸術のまちづくりに必要なこと
(子どもが文化芸術にふれる機会が多いこと)



■ 図2-3 性×年齢別にみた、文化芸術のまちづくりに必要なこと
(高齢者や障害者にも配慮した文化施設が整っていること)



■ 図2-4 性×年齢別にみた、文化芸術のまちづくりに必要なこと
(すぐれた文化芸術を鑑賞する機会が数多くあること)





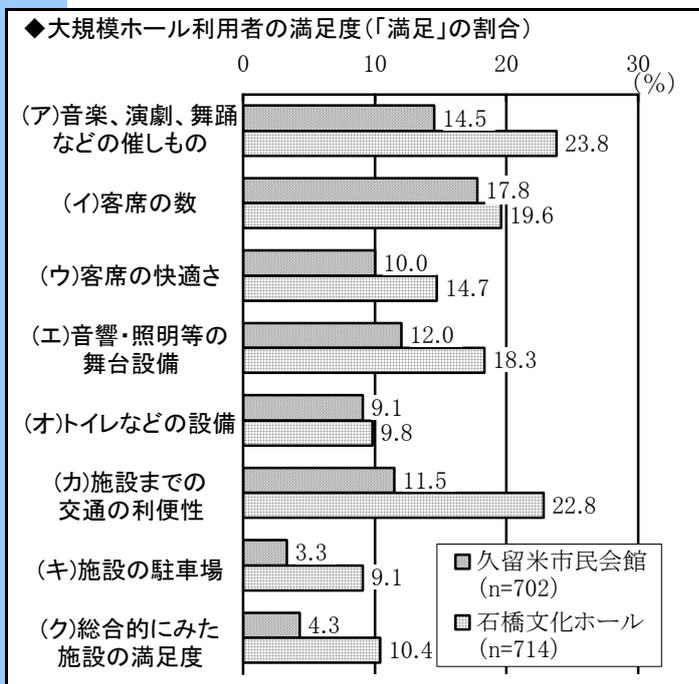
— 文化施設について —

■女性の方が関心度は高い

まず、文化芸術への関心度からみてみよう。「関心がある」は 16.6%、「やや関心がある」が 33.5%と、合計 50.1%が関心を持っている。これを性別でみると、合計値で男性は 42.5%、女性は 56.5%と、14 ポイントも女性の方が高い。「関心がある」だけみても男性（11.9%）と女性（20.5%）で9ポイントもの大きな差がみられる。文化芸術への関心は女性の方が高いという結果である。また、同じ女性でも、40 歳代（59.5%）、50 歳代（62.7%）の世代で高い。これは男性についてもいえ、40 歳代（49.7%）、50 歳代（45.9%）の関心度は 20・30 歳代に比べて高くなっている。「子育て」が一段落するころから、男女とも文化芸術への関心が高くなることがうかがわれる結果である。

■ホールの運営、催しものから改善を

大規模ホールの利用についてみてみよう。「最近行ったことがある」以上を合計した利用率は、久留米市民会館で 30.9%、石橋文化ホールで 31.4%とほとんど変わらない。反対に、「1 度も行ったことがない」は久留米市民会館で 19.3%、石橋文化ホールで 17.4%と、これも大きな差ではない。それぞれに特徴を持つ 2 施設も、利用頻度では差がないという結果である。



「最近行ったことがある」以上の市民に、大規模ホールの満足度を尋ねた結果をみてみよう。ここでは、「どちらかといえば満足」を合計せずに「満足」と答えた人の比率だけで見ることにする。その方が、実態が明確になるからである。「総合的にみた施設の満足度」について「満足」と答えた人は、久留米市民会館（4.3%）と石橋文化ホール（10.4%）では2倍以上の差がみられる。その判断の根拠はどこにあるのだろうか。

総合評価の差（6ポイント差）以上の項目を示すと、「施設までの交通の利便性」が 11 ポイント差で最大、「音楽、演劇、舞踊などの催しもの」が 9 ポイント差、「音響・照明等の舞台装置」が 6

ポイント差という結果である。このなかで、「施設までの交通の利便性」「音響・照明等の舞台装置」は早急な改善が困難ではあるが、「音楽、演劇、舞踊などの催しもの」は運営の工夫が可能な項目である。

このことは、「充実してほしい催し」を尋ねた結果に明らかである。第 1 位は「歌謡コンサートの開催」が 43.3%と非常に高い。しかも、男性で 40.5%、女性で 45.7%

と、男性でも4割という高率をみている。また、文化芸術に『関心なし』でも39.2%と一定の割合となっており、文化芸術の裾野を広げるためにも特に充実させていく必要があるだろう。

このように市民の要望は「歌謡コンサートの開催」に集中している。以下、「クラシックコンサートの開催」(27.5%)、「演劇、演芸、ダンスなどの開催」(24.5%)、「学会、講演会、シンポジウムなどの開催」(20.9%)、「伝統芸能の開催」(19.3%)と続いている。こうした「文化芸術の消費」に関わる項目に対し、「文化芸術の生産」に関わる「市民の文化芸術活動の発表会」は15.0%にとどまる。性別でも、男性(14.9%)と女性(15.2%)はほぼ同率であり、先に「文化芸術の担い手は女性」と述べたが、自ら文化芸術を発信しようとするスタンスはきわめて乏しいといわざるをえない結果である。

■顧客の要望に合わせて、優先順位をつけて課題に対応していく

「大規模ホールの充実」のための施策を尋ねた結果をみてみよう。「駐車場の整備・拡充を行う」が59.4%と最も高く、第2位の「客席の快適さを向上させる」(38.1%)とは21ポイントもの差がみられる。以下、「トイレ等の設備を充実する」(32.4%)、「公共交通機関からの利便性を充実する」(30.9%)、「バリアフリーに対応した設備を充実する」(29.5%)が並んでいる。

大規模ホールの満足度を尋ねた質問で、「満足」「どちらかといえば満足」を合計した数値で最も低かった項目が2ホールとも「施設の駐車場」である。久留米市民会館では14.4%ときわめて低く、石橋文化ホールでも33.9%にとどまっている。こうした現状から、「駐車場の整備・拡充を行う」が最優先の要望として現れたものである。なお、満足度が下から2番目だった「トイレなどの設備」への対応項目、「トイレ等の設備を充実する」は男性で24.6%、女性で39.1%と、女性の方が14ポイント高い。「バリアフリーに対応した設備を充実する」(男性24.7%、女性33.5%)の9ポイント差とあわせ、女性が大規模ホールの顧客だけに、対応の努力が求められる。

なお、「客席数を増やす」は11.8%にとどまる。施設の満足度でも、久留米市民会館については「客席の数」が最も高い結果をみており、現状を肯定的に受け止めている。

ひとこと

久留米市は、平成 18 年に「久留米市文化芸術振興条例」を制定、平成 19 年には「久留米市文化芸術振興基本計画」を策定した。基本計画は、文化芸術が持つ創造の力を「文化の幸」と名付け、「文化の幸」によって「『ひと』が輝き、『ひと』が集う、まちづくり」を計画の大目標とし、「暮らしにうるおい」「街に魅力」「人に輝く個性」「コミュニティに活力」「都市に創造性」の5つの目標を掲げた。計画書の表紙には青木繁の「海の幸」を配し、まさに「久留米らしさ」を全面に打ち出した「まちづくり」計画である。計画の理念として、「市民が担い手（主体性の尊重と市民協働）」と「一人ひとりが輝く（個性の尊重と市民参加）」を提起した。

この計画策定の基礎資料として、平成 17 年度の久留米市民意識調査が実施された。その結果の概要を紹介しながら、今回調査の質問項目、「文化芸術のまちづくりを進める上で必要なこと」の結果を分析することにしよう。

17 年度の文化芸術活動に関わる調査結果は、20 歳代から 40 歳代の女性が「演劇・演芸」「伝統文化」を支えていること、現状でも意向でも男性の関心が低いこと、文化ボランティアの育成が重要なことなどであった。これを解決、改善するための施策が「基本計画」に盛り込まれたのであった。

「文化芸術のまちづくりを進める上で必要なこと」をみてみよう(本報告書 34 ページ参照)。17 年調査の結果では、「すぐれた文化芸術を鑑賞する機会が数多くあること」(35.3%)、「子どもが文化芸術にふれる機会が多いこと」(34.4%)、「さまざまな文化情報が幅広く提供されること」(33.4%)、「高齢者や障害者にも配慮した文化施設が整っていること」(32.5%)の4項目がほぼ同じ程度の比率で並んでいた。今回の結果は「子どもが文化芸術にふれる機会が多いこと」が9ポイント上昇して

第1位に、「高齢者や障害者にも配慮した文化施設が整っていること」が7ポイントアップで第2位、「すぐれた文化芸術を鑑賞する機会が数多くあること」が4ポイントアップで第3位になった。これに対し、「さまざまな文化情報が幅広く提供されること」は 25.9%と7ポイント減少して第4位、「同じ趣味を持った人たちと出会い、意見を交換しあう場があること」は 21.9%と4ポイント減少、かえって「講座やセミナーなどで学ぶ機会があること」22.5%の方が上位にかわった。

こうした結果からは、3年前と比べて「文化芸術のまちづくり」推進のうえで、「子ども」と「高齢者・障害者」をどう参画させていくかが重要な関心事になったこと、「文化情報」に関する満足度がある程度高まってきたこと、「講座やセミナー」など「生涯学習」の性格を強く持つ機会提供への期待が大きくなってきたことがうかがわれる。

これまでの久留米市民意識調査では、文化芸術活動、生涯学習活動、コミュニティ活動への参加状況が重なりあっているという知見が得られている。そして、文化芸術活動、公民館活動やボランティア活動などの場面で高齢者、特に女性の高齢者が多数、社会参加していることを踏まえるならば、「子ども」を核にした「幼老共生のまちづくり」の推進こそが「基本計画」の5つの目標、すなわち「暮らしにうるおい」「街に魅力」「人に輝く個性」「コミュニティに活力」「都市に創造性」の5つのキーワードを貫くものであることが明らかである。

そうした「身近な地域生活」、すなわち校区コミュニティで「文化芸術活動の振興」を進め、久留米市全体ではパートナーシップに基づく市民文化を創造することこそが、中核市・久留米に相応しい「地力と風格」を生み出すことになる。